

神のみこころ

(土曜日——午前の第一の部)

メッセージ 4

神の心とみこころにしたがった生活をする

聖書：使徒 13:22, 36. エペソ 1:9-11. 3:9-11. ヘブル 10:5-10. ローマ 12:1-21

- I. 旧約はダビデの描写を含んでいます。彼は神の心にしたがった人であり、神のみこころを行ない、神のみこころによって彼自身の世代に仕えました（使徒 13:22, 36）。エホバ・イスラエルの神の御名のために家を建てることは、ダビデの心にありました。今日、神はあらゆる面でわたしたちを祝福しており、それは神のエコノミーが成就されて、キリストのからだが建造されるためです（サムエル上 13:14 前半、列王上 8:17、歴代上 22:7, 28:2, マタイ 16:18, エペソ 2:20-22, 4:16）。
- II. 神の新約エコノミーにおける神の大いなるみこころ、神の大いなる喜び、神のみこころの熟慮、神の定められた御旨は、からだを得て、キリスト（手順を経た三一の神の具体化）の拡大また表現とすることです——エペソ 1:9-11, 22-23, 3:9-11：
- A. 天は地のためであり、地は人のためであり、人は召会を生み出すためであり、召会が手順を経た三一の神の拡大と表現です。神の大いなるみこころは、再生され、聖別され、更新され、造り変えられて、手順を経た三一の神のかたちへととなった人から成るからだを得ることです——ゼカリヤ 12:1, ヨハネ 1:12-13, エペソ 5:26, II コリント 4:16, 3:18。
- B. 神の大いなるみこころはまた、召会を得てキリストの有機的なからだとならせ、神の多種多様な知恵を現すことです——エペソ 3:9-10。
- C. エペソ人への手紙の各章が特別な観点から明らかにしているのは、神のみこころの奥義（1:9）、すなわち三一の神の有機体であるキリストのからだの奥義です：
1. エペソ第1章が啓示しているのは、キリストのからだは、手順を経た三一の分与と超越したキリストの伝達との結果であるということです。
 2. エペソ第2章が啓示しているのは、キリストのからだは三一の神の傑作、すなわち、一人の新しい人であるということです——10, 15-16 節。
 3. エペソ第3章が啓示しているのは、キリストのからだは三一の神の豊満になるのは、わたしたちがキリストの豊富で供給されることによってであり、またキリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造ることによってであるということです——8, 14-19 節。
 4. エペソ第4章が啓示しているのは、キリストのからだは、手順を経た三一の神と再生された信者たちとのミングリングであるということです、またこの一つからだが一つの務めによって建造されるということです——4-6, 11-16 節。
 5. エペソ第5章が啓示しているのは、キリストのからだは光の子供たちから成っていて、キリストの花嫁となり、キリストに満足を得させるということです——8-9, 25-27 節。
 6. エペソ第6章が啓示しているのは、キリストのからだは、三一の神の団体の戦士であり、神の敵を打ち破るということです——10-20 節。

D. 神はからだを調和（ブレンディング）させられました（I コリント 12:24）。「調和」という言葉は、「調整する」、「調和一致する」、「調節する」、「ミングリングする」という意味もあります：

1. からだの生活の中でブレンディングされるために、わたしたちは十字架を通して、その霊によって、キリストのからだのために、キリストを他の人たちに分与しなければなりません。
2. ブレンディングの意味は、わたしたちが何かを行なおうとするとき、いつも停止して、他の人たちと交わるといことです。
3. ブレンディングは、キリストの宇宙的なからだを建造して（エペソ 1:23）、彼の大きいなる喜びにしたがって、神のエコノミーの最終的な目標である新エルサレムを究極的に完成するためです（エペソ 3:8-10. 1:9-10. 啓 21:2）。

III. 神の大きいなるみこころは、キリストを旧約のすべてのいけにえとささげ物の置き換えとすることです。それは、わたしたちが彼をわたしたちのすべてのすべてとして享受するためです——ヘブル 10:5-10. 詩 40:6-8：

A. キリストは新契約の唯一のいけにえとして、神の新約エコノミーを制定する要因です（マタイ 26:28）。それは、彼がその中心性また普遍性となって、召会を生み出し、建造して、彼の有機的なからだとならせ、それが新エルサレムにおいて究極的に完成するためです。

B. キリストが旧約のすべてのささげ物を置き換え、旧約のすべての予表を取り去り、ご自身をわたしたちのすべてとして打ち立てたことは、神の大きいなるみこころです。こうして、キリストは時代を転換し、神の旧創造の中から神の新創造を完成しました（II コリント 5:17. ガラテヤ 6:15）。彼が時代を転換したことは、創世記第 1 章で述べられている宇宙の創造よりも大きいなることです：

1. 旧約はイザヤ書第 53 章で、キリストが来て罪のためのいけにえとなって、レビの祭司の体系のいけにえに置き換わり、それを終結させることを予言しました（6, 11-12 節）。神はキリストのために体を備えました。それは、キリストがご自身を神にささげて、すべてのささげ物に置き換わることができるためでした（ヘブル 10:5）。
2. キリストは「第一のもの」、すなわち旧契約のいけにえを取り去りました。それは、彼がご自身を「第二のもの」、すなわち新契約のいけにえとして打ち立てるためでした——9 節：
 - a. 「第二のもの」として、キリストはすべてです——9 節。
 - b. このみこころによって、キリストの体が一度限りささげられたことを通して、わたしたちは聖別されました。それは、わたしたちが彼をわたしたちのすべてとして享受し、あずかるためです——10 節。

C. キリストがささげ物の実際であるのは、わたしたちが神を霊と真実の中で礼拝するためです。この真実とは、神聖な実際が、神への真の礼拝のために、人の信実と誠実となったものです——ヨハネ 4:23-24：

1. 完全に神の満足のためであった全焼のささげ物が予表するのは、キリストが神の喜びまた満足であり、彼の地上での生活が神のために絶対的であったということ

です——レビ 1:3. 民 28:2-3. ヨハネ 7:16-18。

2. 穀物のささげ物が予表するのは、完全な人性におけるキリストが神のための食物であり、また神と交わり、神に仕える人のための食物であるということです——レビ 2:1, 4. ヨハネ 7:46. 18:38. 19:4, 6。
 3. 平安のささげ物が予表するのは、キリストが平和をつくる方であるということです。彼はわたしたちのために死ぬことによって、わたしたちと神との間の平和と交わりとなりました。そして彼は、わたしたちが神と共にキリストを享受し、キリストの中で神と交わりを持ち、わたしたちと神が相互に満足することができるようにしました——レビ 3:1. エペソ 2:14-15. ヨハネ 12:1-3. 20:21。
 4. 罪のためのささげ物が予表するのは、キリストがわたしたちのために罪（単数）とされ、十字架上で死んで、わたしたちの墮落した存在の罪深い性質を対処した方であるということです——レビ 4:3. II コリント 5:21. ローマ 8:3. ヨハネ 1:29. 3:14。
 5. 違犯のためのささげ物が予表するのは、キリストがわたしたちの罪（複数）を、ご自身の体において担い、十字架上で神によって裁かれて、わたしたちの罪深い行為を対処し、わたしたちの罪深い行為が赦されるようにした方であるということです——レビ 5:6. I ペテロ 2:24. 3:18. イザヤ 53:5-6, 10-11. ヨハネ 4:15-18。
 6. 揺り動かすささげ物が予表するのは、愛の中にある、復活したキリストです——レビ 7:30. 10:15。
 7. 挙げるささげ物が予表するのは、昇天して高く上げられた力強いキリストです—— 7:32. 出 29:27. エペソ 1:21。
 8. 注ぎのささげ物が予表するのは、キリストが神の御前にぶどう酒として注ぎ出されて、神の満足となった方であり、また天のぶどう酒としてのご自身をもってわたしたちに浸透し、注ぎ出されて、神の享受と満足となる方であるということです——レビ 23:13. 出 29:40. 民 28:7-10. イザヤ 53:12. ピリピ 2:17. II テモテ 4:6. 士 9:13。
- D. わたしたちは神の心とみこころにしたがった生活をして、日ごとにささげ物の実際としてのキリストを享受し、三一の神の神聖な目標に到達する必要があります。それは、わたしたちをみなご自身の中へともたらし、わたしたちが彼をわたしたちの住まいとし、また彼にわたしたちを彼の住まいとしていただいて、わたしたちが彼の宇宙的で、拡大された、神性と人性の合併となることです——ヨハネ 14:23. 啓 21:3, 22。

IV. 神の大いなるみこころは、キリストにある信者たちがからだの生活を実行すること、すなわち、キリストのからだの生活をするということです——ローマ 12:1-21 :

- A. わたしたちは「キリストの中で一つからだ」であり、彼との有機的な結合を持っています。この結合は、わたしたちを命の中でキリストと一にし、また彼のからだのすべての肢体と一にします—— 4-5 節 :
1. ローマ第 12 章 5 節の「キリストの中で」という言葉は、有機的な結合を示します。「キリストの中で」は常に、わたしたちがキリストと有機的に一であるという思想、あるいは事実を暗示しています。

2. からだの実際は、キリストとの有機的な結合の中にとどまることです。ですから、ヨハネ第 15 章は、わたしたちに彼の中に住むようにと命じているのです。彼の中に住むことは、この有機的な結合の中にとどまることを意味します。
- B. 召会生活、キリストのからだの生活が実現するためには、わたしたちの全存在が必要です。ささげられた体、造り変えられた魂、燃える霊は、正常な召会生活に必要な不可欠なものです——ローマ 12:1-2, 11 :
1. わたしたちは召会生活のために、わたしたちの体を生きた犠牲としてささげる必要があります :
- a. ローマ第 12 章 1 節の「体」は複数であり、「犠牲」は単数です。これは、多くの体がささげられても、一つの犠牲となることを示しています。すなわち、わたしたちは大勢ですが、キリストのからだの中での奉仕は、多くの個人的な、単独の、分離した奉仕であってはならないことを暗示しています。
- b. わたしたちのすべての奉仕は、一つの全体的な奉仕を構成すべきであり、この奉仕は唯一無二でなければなりません。なぜならそれは、キリストの一つからの奉仕であるからです。
2. わたしたちの体をささげた後、わたしたちの思いが新しくされる必要があります—— 2-3 節 :
- a. 思いが新しくされることは、思いを霊に付けた結果であり (8:6)、魂の造り変えの基礎です。わたしたちの思いは、魂の主導的な部分です。この思いが新しくされると、意志と感情も、それに続いて自然に新しくされます。
- b. 新しくされるとは、新しい要素がわたしたちの中へと造り込まれることを意味します。それによって、内側に新陳代謝的な変化が生じ、わたしたちをキリストのからだの建造、すなわち召会生活の実行にふさわしいものとします。
3. わたしたちは霊の中で燃やされ、それによって奮い立たされ、励まされて、召会生活の中で積極的に前進しなければなりません。死んだむなしい知識と教理上の儀式は、わたしたちを墮落させ、なまぬるくします。わたしたちはなまぬるさを悔い改め、熱心で、沸騰し、燃えている必要があります。そのようにして、わたしたちはキリストの実際の享受を取り戻すことができます—— 12:11. 啓 3:16, 19-22。
- C. キリストが恵みとしてわたしたちの中へと入って来る時、この恵みは特定の技能や能力の要素をもたらします。それはわたしたちの中の命の成長に伴って発展して、命の賜物となります。それはわたしたちが、キリストのからだの中で機能して、神に仕えるためです——ローマ 12:4-8。
- D. ローマ第 12 章 9 節から 21 節は、正常なクリスチャン生活を見せています。それは、召会生活の実行のために必要な基礎であり、召会生活に適合するものです。これはからだの生活のための最高の美德の生活です。このようなからだの生活をするのできるのは、ただ命の中で王として支配することによります—— 5:17。
- E. 神の全体的な救いは (ローマ 5:10-11)、わたしたちがあふれるばかりの恵み (わたしたちの有機的な救いのためのすべてに十分な供給としての神ご自身) と義の賜物 (実際的な方法でわたしたちに適用された神の法理的な贖い) によって、命の中で

王として支配するためです。わたしたちすべてが命の中で王として支配し、神聖な命の支配の下で生きているとき、その結果は真の実際的なからだの生活です。